



前月末の子どもの姿

低月：足をねじって体を傾けたり、手足を使って活発に体を動かす。また、うつぶせにすると頭を持ち上げようとする。・眠っている時と起きている時の差がはっきりし、起きている時は喃語を発する。・ミルクの量が増え吐乳が減る。
 高月：身の回りの物に興味を示す。また、引いたり押したり投げたりといった運動機能も発達し、力も強くなる。・名前を呼ぶと、手をあげたり、その方向を見たりする。・手遊びを喜び、手をたたいたり手足を動かしたりする。
 ・体調を崩し咳や鼻水が出る子が目立つ。・歩行やつかまり立ちを楽しむ。

ねらい：暑い夏を気持ちよく過ごす。・水の感触や沐浴を楽しみ、気持ちよく過ごす。・保育者や友だちとの触れ合いを楽しむ。

安全・健康：健康状態により沐浴や水遊びが無理なくできるようにする。・用具、遊具、玩具の点検を行う。・シャワーや衣服の交換をこまめに行い、肌の清潔を保ち、皮膚のトラブルに留意する。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ●必要に応じて沐浴やシャワーを浴びたり、こまめに水分補給をしたりする。また、十分な休息を取り、暑い夏を心地よく生活する。 ●安心してできる環境の中で、自分の遊びや探索活動を十分楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●安全と衛生面を確認後、湯を入れたり準備する。また、個々に応じた方法で、いつでも水分補給ができるようにしておく。 ○●子どもに背を向けられないよう、立ち位置や座る位置に気を付ける。また、子どもが見えなくならないよう、保育室内の物の配置を工夫する。 ○●着替えのかごを準備し、衣服の取り換え、入れ換えがないような環境を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○湯の中に入ることによる不安を抱き泣くが、湯船に入ると気持ちよさそうにし、笑顔を見せたり、喃語を発する。 ○●暑さによる疲れから、いつもより長く眠ったり、寝苦しそうだったり、眠りが浅かったりする。 ○保育者の顔を見て笑う。 ●暑さのため、食欲がなく水分を欲しがる。 ●食事スペースなど、様々な場所へ行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの目線で話しかけ、優しく体をなでたり、湯をかけたりにして楽しく沐浴できるようにする。 ●汗をかくことが増えるとあせもや皮膚疾患を起こしやすいので、シャワーを浴び、タオルで体を拭く。シャワー室は使用後は必ず鍵をかけ、事故を防ぐ。 ○●いつでも水分補給ができるよう、湯ざまし、お茶を準備しておく。 ○●危険がない保育室の環境を整え、子どもが満足できるまで探索活動を楽しめるようにする。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○寝返りしたり、腹ばいの体勢を楽しむ。 ○●自分の好きな遊びを見付け、満足できるまで遊ぶ。 ○喃語を発する。 ●自分以外の友達の存在に気付く。 ●水に触れることを楽しむ。 ●名前を呼ばれると、手をあげるなど反応する。 ○●自分で意欲的に食べたり、哺乳瓶に手を添えてミルクを飲もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に仰向遊べることのできるスペースを確保する。 ○●手触りがよい玩具や、音の出る玩具を、子どもが取り出しやすいように設置する。 ●水遊びの2時間前に水をくみ置きし、水温調節する。 ●子どもが行きたがる場所に玩具を置くなど、発見や探索を楽しめるように環境や玩具を工夫する。 ●自分で食べる気持ちを大切にしながら、手に持てるような食材を準備し、盛り方を工夫して楽しく食事ができるようにする。 ●暑さのため、食欲がないときはミルクで補う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○寝返りをしようと体を横向きにする。 ○目の前の玩具に手を伸ばして握ったり、くちの中に入れようとする。 ○「あー」「うー」と喃語を発し、保育者の返しにこたえて笑う。 ●行動が活発になり保育室の隅へ行ったり、保育室の戸を開けようとし、廊下に出たがる。 ○●喃語を発する。 ●友達に顔に触れたり、つねったり、たたいたりする。 ●水を怖がり、水がかかることを嫌がる。または喜ぶ。 ●滑って転倒する。 ●名前を呼ばれると返事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あやし遊びの際に寝返り運動を取り入れる。 ○●様々な玩具に触れ、人との関わりを楽しめるようにする。また、名前を呼ばれたら保育者が手を添えて、一緒に返事をするなどの温かい雰囲気をつくる。 ●水遊びでは、保育者は子どもの姿に十分に目を向け、「気持ちいいね」と保育者も水に触れ、心地よさを感じるようにする。 ○喃語を話す子どもの口元を真似て「楽しいね」など、やり取りをする中で発語の喜びや楽しさを知らせていく。 ●楽しく話す機会を設け、子どもが聞いていることを意識し、生活や行為に結び付いた言葉で優しく語りかけ、喃語を引き出す。

職員との連携：水遊びが始まるので、職員間の役割を十分に話し合い、安全に遊ぶことができるようにする。・暑さのために食欲が落ちたり、眠れなくなったりするので、個々の子どもへの対応の仕方を話し合う。

家庭との連携：当日の体調を必ず伝えてもらい、その日の遊びの内容を配慮する。・汗をかいたり衣服が汚れやすくなったりすることを伝え、タオルや衣服の補充を多めに準備してもらおう。・家庭では、どのように入浴やシャワーをしているのか尋ねる。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

--	--	--